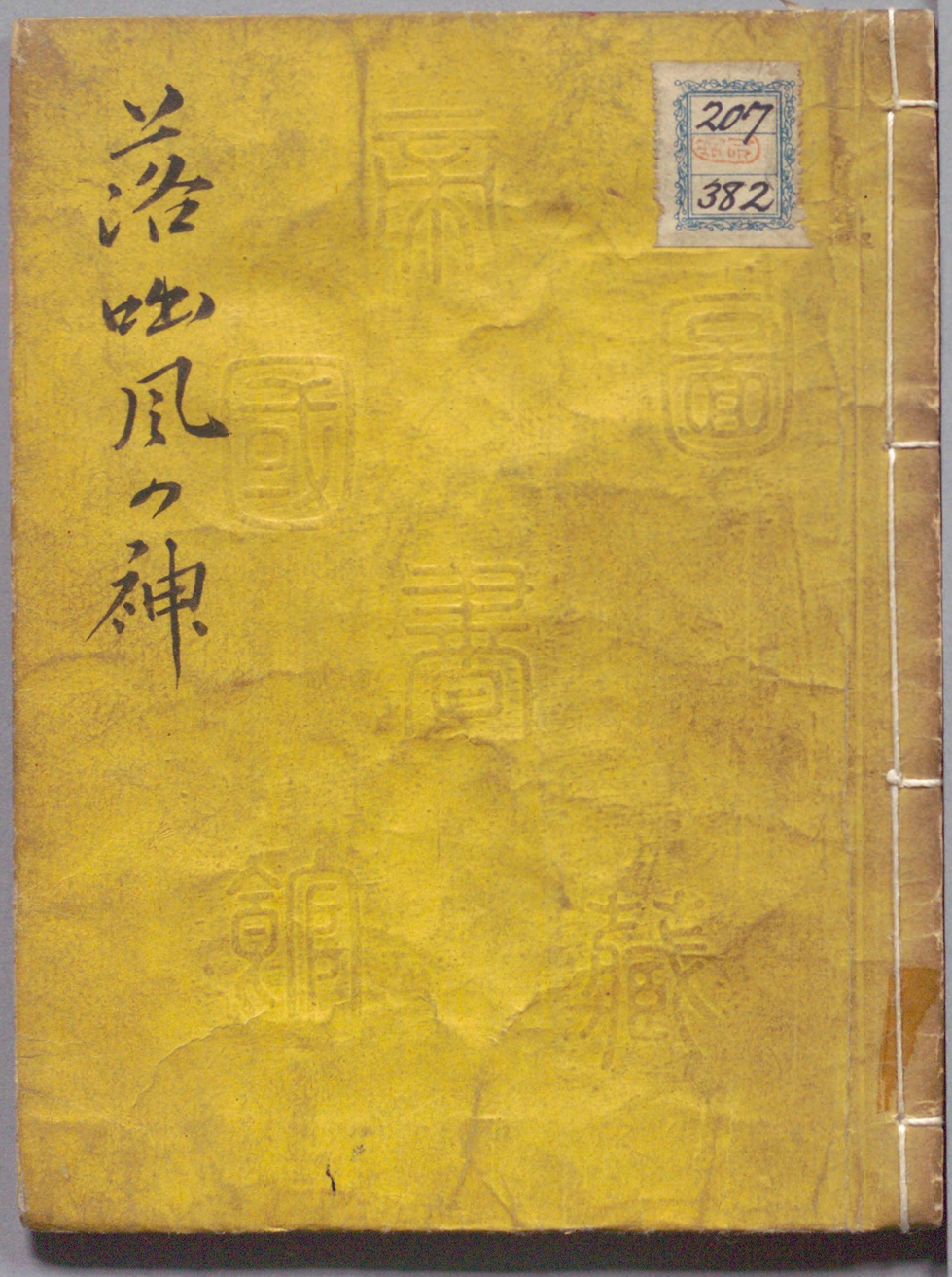
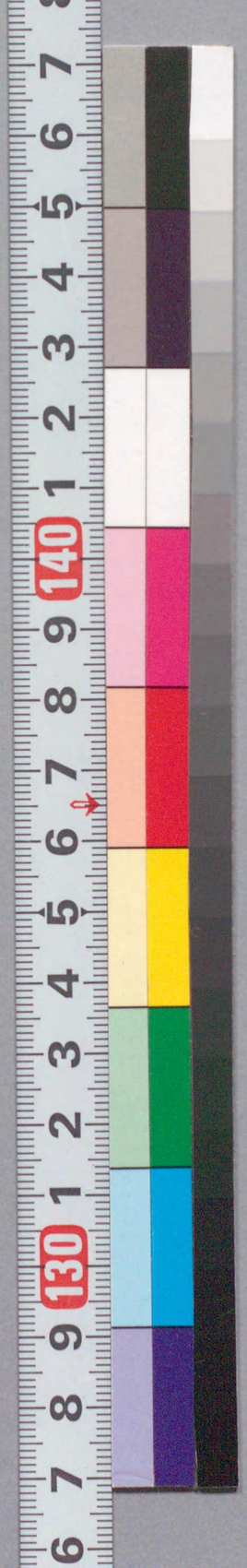


国立国会図書館　　風乃神 : 2巻 207-382



ガラス使用

国立国会図書館　風乃神：2巻 207-382

ガラス使用

風の秋枝をかしさだ。夏のた朝に鶯たど
乃のね此の日乃。いとゞ永日に絲菓紙を絶
逆。柳枝のさ花に芥子の花の口うつし
源あが鶯来のまいり法分に鐘のぬるゝもそ
ゆもとこの花は行ぬるもそとより大内のもちの櫻
はよりおつ風花のくぎもきらいぞ送り果
也。雷門先芳春氏の雛を笑て。
帝はさまとかくなし

辰の春

十偏舎一九題

国立国会図書館　風乃神：2巻 207-382

ガラス使用

国立国会図書館　　風乃神：2巻 207-382

ガラス使用

国立国会図書館　　風乃神：2巻 207-382

ガラス使用

国立国会図書館　風乃神：2巻 207-382

ガラス使用

国立国会図書館　　風乃神：2巻 207-382

ガラス使用

国立国会図書館　風乃神：2巻 207-382

ガラス使用

国立国会図書館　風乃神：2巻 207-382

ガラス使用

このごろセクのへクゼのまちのことまつてさだぞそいもそろいろクゼのうぐいすざうりとうれさしれがらんあんさまさてつけさまのまつくたねよセたこまセつれクさよ〳〵のクゼのうぐいすざ

「うんどのクゼをひいさりめくさすれくまいもろいえぞいれてあるとりふまそ

下うのよいまぞなごうねもるのうぐいすをあわくの人うぜをひらセるんざさまるざんりそのわうりとちうのいんぐどぢぞうさなと血そうらんなさねてクのクゼのうぐいすをてんぢちくおうりくをつりみてくうりよんこをうぐいすセぢぞうさまよクをうろてりくいひゆうしよやろてうセのうぐいすをおくれくれどうふざうふとひゆうざ

「うんどのクゼいちやんざとうのこうねざうそのるだうろうとうふこ

「りでござりまさハアらうさやこあいーくうろうこうーもひのさそふざコレくこれとみけがあるとうとういんぐさくまさちふゆこうちぐでうらんをクけまセふ

「りでこのころへたよセのどもうひまやこうへおうくとあうりさ

国立国会図書館　風乃神：2巻 207-382

ガラス使用

国立国会図書館　　風乃神：2巻 207-382

ガラス使用

国立国会図書館　　風乃神：2巻 207-382

ガラス使用

207
382

国立国会図書館　風乃神：2巻 207-382

ガラス使用

国立国会図書館　　風乃神：2巻 207-382

ガラス使用

国立国会図書館　　風乃神：2巻 207-382

ガラス使用